

「授業評価票」みよしモデル

年 月 日

4 : できている 3 : 概ねできている 2 : あまりできていない 1 : できていない

	No	評価項目	4段階評価	
授業の 構想を 立てる	1	めあてをはっきりさせている。	4 3 2 1	
	2	めあてに対応する評価方法を準備している。	4 3 2 1	
	3	めあてに迫る中心発問を準備している。	4 3 2 1	
	4	思考を広げるゆさぶり発問を想定している。	4 3 2 1	
	5	効果的な補助資料（プリント等）を用意している。	4 3 2 1	
	6	思考の流れやつながりの分かる構造的な板書計画を立てている。	4 3 2 1	
授業 開始前	7	授業開始前には、着席し、授業準備を行うように指導している。	4 3 2 1	
	8	授業前に、子どもたちの表情や様子を観察している。	4 3 2 1	
	9	黒板は、板書できるようにきれいになっている。	4 3 2 1	
	10	教室が整然と整えられている。	4 3 2 1	
授業中	始 業	11	号令をかけて、きちんと礼をさせている。	4 3 2 1
		12	ノートの書き方を決めてノート指導をしている。	4 3 2 1
	導 入	13	既習事項の確認をカード等でテンポ良く行っている。	4 3 2 1
		14	本時の学習に見通しを持たせるめあてを提示している。	4 3 2 1
	展 開	15	話し過ぎず、説明や指示、発問を明確に行っている。	4 3 2 1
		16	板書は、ノートに書かせたい内容を焦点化して書いている。	4 3 2 1
		17	机間指導は目的をもって(その後の授業展開を考え)行っている。	4 3 2 1
		18	発表は、意図的指名を効果的に取り入れて発表させている。	4 3 2 1
	ま と め	19	文章（言葉）で授業の振り返りを書かせている。	4 3 2 1
		20	板書をノートにしっかり書く時間をとっている。	4 3 2 1
授業を 終えて	21	学習の振り返りで、個々の学習の評価を整理している。	4 3 2 1	
	22	宿題（家庭学習）の確認や次時の授業へのつなぎを考えている。	4 3 2 1	
	23	計画的に、家庭学習で予習・復習をさせて授業を展開している。	4 3 2 1	
<p>【4段階評定】あなたの授業は・・・ A : 3.5 以上 （三次の授業モデルです。 自信をもって更なる授業力向上を目指しましょう。） B : 3.0 ~ 3.5 （もう少しです。授業を日常的に公開し助言をもらいましょう。） C : 2.0 ~ 3.0 （まずは授業構想から見直しできる項目を1つずつ改善しましょう。） D : 2.0 未満（モデルとなる授業参観を積極的に行い、授業改善を急ぎましょう。）</p>			合計 点 平均 点 評定 ()	

授業評価参考資料

【教材研究・準備】その授業で「身に付けさせたいこと(力)」は何かをはっきりさせる。そのためにしっかり教材解釈(分析)を行い、そして、「めあて」をはっきりさせる。

・授業の構想を立てる

- (1) 「めあて」は、学習指導要領に則っためあてにする。
関心・意欲・態度 「 に挑戦しよう」「 を完成しよう」など
思考・判断・表現 「 を見つける」「 を解決する」「 を工夫する」など
技能 「 ができるようになる」「 を身に付ける」など
知識・理解 「 が分かる」「 を理解する」など
- (2) めあてに対応する評価方法を準備する。
適切な評価問題を準備しましょう。 振り返りの評価基準を明確にしましょう。
- (3) 中心発問を(少なくとも1つ以上)準備する。
「中心発問」は、めあてに迫るための授業で一番大切なはたらきかけです。予想される子どもの反応を準備しておきましょう。
補足的に、「ゆさぶり発問(収束・拡散)」も想定しておく、子どもの思考が広がります。
- (4) 子どもたちの学習意欲を高め、思考力・判断力・表現力を高めるための効果的な補助資料を準備する。
- (5) 板書計画を立てる(板書はその1時間の流れが全て分かるものにする)
思考の流れが分かる板書にしましょう。 構造的な板書にしましょう。

・授業開始前

- (1) 教室で、授業前の子どもたちの様子を観察する(学習用具の準備の状況、子ども同士の会話・表情)
- (2) 教室を整然と整え、黒板は、すぐに書けるようきれいにしておく(チョークや物さしなどは整理する)

・授業中

- (1) 授業開始の号令は、授業への切り替えであり、きちんと礼をさせる(必要に応じやり直しもさせる)
- (2) 導入～時間は短めに簡潔に行う(5分程度)
ノートの書き方を各教科で決め、日頃からノート指導を徹底しましょう。
気付きや考えが書けるように、予めスペースをゆったりとる。
しっかり聞き、見て、できるだけ速く書く指導を行っていく。
自分の思考の間違いを消しゴムで消させない(赤ペンで修正)。
既習事項の確認は、カードやプリント等を使い、テンポ良く行いましょう。
本時の学習に、「見通し」を持たせる「めあて」を提示しましょう(本時の目標にふさわしいものに)
- (3) 展開
「話し過ぎ」は厳禁です。
教師の「話しすぎ」は、生徒の思考力・判断力育成を阻害する(端的に1回で指示,説明する)
言語技術を活用させるために、まず教員が手本を示す(結論先行,根拠をナンバリングで)
板書は、子どもたちに「必ずノートにとってもらいたいこと」を意識しましょう。
「教えること」「考えること」「評価すること」のゾーンを明確にする。
線はものさしで引く。文字は丁寧に書く。色チョークを効果的に使う。図・表を活用する。
机間指導は目的をもって行いましょう。
子どもたち一人一人の学習状況の確認(把握) つまづきのある子どもの個別指導
座席表を活用し、意図的・計画的な机間指導を行い、見取った子どもたちの思考・表現を展開に生かす。
発表は、机間指導で得たメモを活用し、「意図的指名」も効果的に利用しながら発表させましょう。
(机間指導しながら、意見を収束させるために)指名の順番を考えておく(意図的な指名)
- (4) まとめ～遅くとも、授業終了の5分前には始める。
授業の「振り返り」をさせましょう(自己評価「よくできた・ふつう・できなかった」を改善する)
【参考例】三次市教育スーパーアドバイザー相澤秀夫教授は、『自己評価の3カ条』として
『言葉(文章)で書く。 毎時間書かせる必要はない。 教科の特性に応じたまとめ方がある。』
とされています。
「習得型」授業では、特に、板書をノートにしっかり書く時間を取りましょう。

・授業を終えて

- (1) 書かせた「振り返り」は整理し、自身の授業評価を行う。これを次時の授業計画に生かす。
- (2) 「本時の授業」と「宿題(家庭学習)」と「次時の授業の導入」をスムーズにつなげる。
- (3) (家庭学習で予習をさせる場合)次時の授業は、予習した内容を深化・発展させる内容を計画する。